

## 0.1 ホモトピーの完全列

fiber bundle の基本的な性質を調べたところで、そろそろ完全列の話に入っていかなければ。無論、以前にやった対空間のホモトピー完全列と言うのがあった。ただ、対空間と言うのは扱いにくいので、被約ホモロジー群の時のように対空間の出ない完全列と言うのを考えたいね。

### Theorem 0.1.1

$p : E \rightarrow B$  が、fiber を  $F$  にもつ fiber bundle とする。 $B$  が基点つき CW complex でその基点を  $*$  とし、 $e_0 \in F$  に対し、

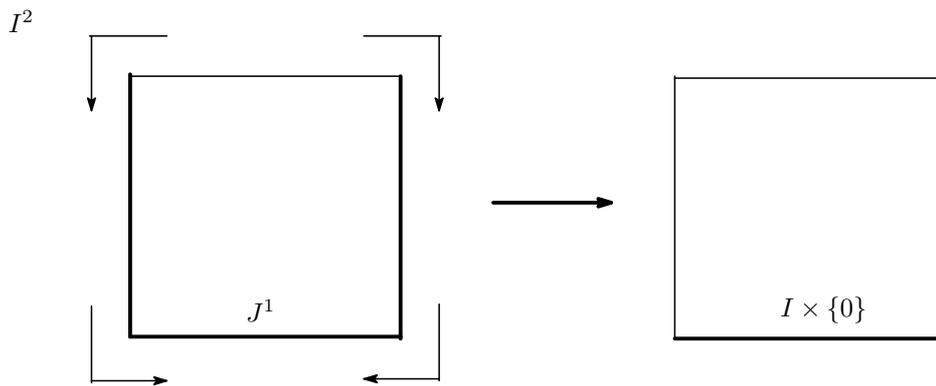
$$p_* : \pi_n(E, F, e_0) \rightarrow \pi_n(B, *)$$

は  $n \geq 2$  で全単射。

proof) まずは全射から示す。  $[f] \in \pi_n(B, *)$  をとると、

$$f : (I^n, \partial I^n, J^{n-1}) \rightarrow (B, *, *)$$

と見なせる。ここで対の同相  $(I^n, J^{n-1}) \cong (I^n, I^{n-1} \times \{0\})$  があることに注意する。写像を具体的に構成すると大変だが、 $n = 2$  ぐらいで絵で見るとこんな感じ。



これより、定値写像  $e_0 : I^{n-1} \times \{0\} \rightarrow E$  を用いて、次の図式は可換である。

$$\begin{array}{ccc} J^{n-1} & \xrightarrow{e_0} & E \\ \downarrow \cap & & \downarrow p \\ I^n & \xrightarrow{f} & B \end{array}$$

無論  $I^{n-1} \times \{0\}$  と  $J^{n-1}$  は同一視している。これより、CHP から、

$$\begin{array}{ccc} J^{n-1} & \xrightarrow{e_0} & E \\ \cap \downarrow & \nearrow \exists \tilde{f} & \downarrow p \\ I^n & \xrightarrow{f} & B \end{array}$$

を可換にする  $\tilde{f}$  の存在が言える。

$$\text{つまり、} \quad \tilde{f}|_{I^{n-1} \times \{0\}} = \tilde{f}|_{J^{n-1}} = e_0, \quad p \circ \tilde{f} = f$$

また、 $p \circ \tilde{f}(\partial I^n) = f(\partial I^n) = *$     これより、 $\tilde{f}(\partial I^n) \subset p^{-1}(*) = F$

$$\therefore \quad \tilde{f} : (I^n, \partial I^n, J^{n-1}) \longrightarrow (E, F, e_0)$$

であり、 $p_*[\tilde{f}] = [p \circ \tilde{f}] = [f]$

次に単射を示す。  $[f], [g] \in \pi_n(E, F, e_0)$  に対し、 $p_*[f] = p_*[g]$  とする。

$$\therefore \quad p \circ f \simeq p \circ g \quad \text{これより、}$$

$$\exists H : (I^n \times I, \partial I^n \times I, J^{n-1} \times I) \longrightarrow (B, *, *) \quad \text{s.t.}$$

$$H(x, 0) = p \circ f(x), \quad H(x, 1) = p \circ g(x)$$

ここで、 $K^n = I^n \times \{0\} \cup I^n \times \{1\} \cup J^{n-1} \times I \subset I^n \times I$  とおく。やはり対の同相

$$(I^n \times I, K^n) \cong (I^n \times I, I^n \times \{0\})$$

に注意し、これを同一視する。

$$h : K^n \longrightarrow E$$

$$\text{を、} \quad h|_{I^n \times \{0\}} = f, \quad h|_{I^n \times \{1\}} = g, \quad h|_{J^{n-1} \times I} = e_0$$

で定義すると、これは連続であり、明らかに次の図式を可換にする。

$$\begin{array}{ccc} K^n & \xrightarrow{h} & E \\ \cap \downarrow & & \downarrow p \\ I^n \times I & \xrightarrow{H} & B \end{array}$$

やはり、CHP より、

$$\begin{array}{ccc}
 K^n & \xrightarrow{h} & E \\
 \downarrow \cap & \searrow \exists \tilde{H} & \downarrow p \\
 I^n \times I & \xrightarrow{H} & B
 \end{array}$$

を可換にする  $\tilde{H}$  の存在が言える。

つまり、  $\tilde{H}|_{K^n} = h$  ,  $p \circ \tilde{H} = H$

これより、  $\tilde{H}|_{I^n \times \{0\}} = f$  ,  $\tilde{H}|_{I^n \times \{1\}} = g$  ,  $\tilde{H}|_{J^{n-1} \times I} = e_0$

は簡単にわかる。そして、

$$p \circ \tilde{H}(\partial I^n \times I) = H(\partial I^n \times I) = *$$

なので、  $\tilde{H}(\partial I^n \times I) \subset p^{-1}(*) = F$  がわかり、以上より、

$$\tilde{H} : (I^n \times I, \partial I^n \times I, J^{n-1} \times I) \longrightarrow (E, F, e_0) \quad \text{で、} f \text{ と } g \text{ を繋ぐホモトピー}$$

$$\therefore [f] = [g] \quad \text{in} \quad \pi_n(E, F, e_0)$$

**Remark 0.1.2**

$p : E \longrightarrow B$  が、fiber を  $F$  にもつ fiber bundle とする。 $B$  が基点  $*$  を持つ CW complex で、 $i : F \longrightarrow E$  inclusion に対し、次が完全。

$$\begin{array}{ccccccc}
 \cdots & \longrightarrow & \pi_n(F) & \xrightarrow{i_*} & \pi_n(E) & \xrightarrow{p_*} & \pi_n(B) & \xrightarrow{\partial} & \pi_{n-1}(F) & \longrightarrow & \cdots \\
 & & & & & & & & & & \cdots & \longrightarrow & \pi_1(F) & \xrightarrow{i_*} & \pi_1(E)
 \end{array}$$

proof) Th ??の対空間  $(E, F)$  でのホモトピー完全列と Th ??を使えば、簡単。

ここで、 $\pi_1(E)$  の先に  $\pi_1(B)$  があるのではと気になるが、対空間の完全列と Th ??を使う以上  $n \geq 2$  までしか言えない。これを示すには、実際にやるしかない。

**Proposition 0.1.3**

$p : E \rightarrow B$  が、fiber を  $F$  にもつ fiber bundle とする。 $B$  が基点  $*$  を持つ CW complex で、 $i : F \rightarrow E$  inclusion に対し、

$$\pi_n(F) \xrightarrow{i_*} \pi_n(E) \xrightarrow{p_*} \pi_n(B) : \text{exact} \quad (n \geq 1)$$

proof)  $F$  の定義から、 $p \circ i(F) = \{*\}$  なので、 $p \circ i = *$

$$\therefore p_* \circ i_* = (p \circ i)_* = 0 \quad \text{なので、} \quad \text{Im } i_* \subset \text{Ker } p_*$$

逆の包含関係を示す。  $[f] \in \pi_n(E)$  に対し、 $p_*[f] = 0$  とする。

$$\therefore p \circ f \simeq * \quad \text{なので、}$$

$$\exists H : S^n \times I \rightarrow B \quad \text{s.t.} \quad H(x, 0) = p \circ f(x) , \quad H(x, 1) = * , \quad H(*, t) = *$$

つまり、次の図式が可換となる。

$$\begin{array}{ccc} S^n \times \{0\} & \xrightarrow{f} & E \\ \downarrow \cap & & \downarrow p \\ S^n \times I & \xrightarrow{H} & B \end{array}$$

これより、基点つき CHP を用いて、

$$\begin{array}{ccc} S^n \times \{0\} & \xrightarrow{f} & E \\ \downarrow \cap & \nearrow \exists \tilde{H} & \downarrow p \\ S^n \times I & \xrightarrow{H} & B \end{array}$$

を可換にする基点を保つホモトピー  $\tilde{H}$  が存在。

$$\text{つまり、} \quad \tilde{H}|_{S^n \times \{0\}} = f , \quad p \circ \tilde{H} = H , \quad \tilde{H}(\{*\} \times I) = *$$

ここで、 $g = \tilde{H}|_{S^n \times \{1\}}$  とおくと、

$$p \circ g = p \circ \tilde{H}|_{S^n \times \{1\}} = H|_{S^n \times \{1\}} = *$$

$g(S^n) \subset p^{-1}(*) = F$  なので、 $[g] \in \pi_n(F)$  であり、

$$i_*[g] = [i \circ g] = [f] \quad \therefore \quad \text{Ker } p_* \subset \text{Im } i_*$$

**Theorem 0.1.4**

$p : E \rightarrow B$  が、fiber を  $F$  にもつ fiber bundle とする。  $B$  が基点  $*$  を持つ CW complex ならば、次の完全列がある。

$$\begin{aligned} \cdots \rightarrow \pi_n(F) \xrightarrow{i_*} \pi_n(E) \xrightarrow{p_*} \pi_n(B) \xrightarrow{\partial} \pi_{n-1}(F) \rightarrow \cdots \\ \cdots \rightarrow \pi_1(F) \xrightarrow{i_*} \pi_1(E) \xrightarrow{p_*} \pi_1(B) \end{aligned}$$

さらに、 $\pi_1(B)$  のその先はとか考えるでしょうか。まあ、普通にいくと  $\pi_0$  に落ちるのですが、 $\pi_0$  は集合なので、群の完全列には組み込めません。もちろん集合の完全列という考えもありますけど。ここではあくまで群の完全列で考える。

**Proposition 0.1.5**

Th ?? の仮定の下、  $F : \text{弧状連結}$  ならば、

$$p_* : \pi_1(E) \rightarrow \pi_1(B) \quad \text{は全射}$$

proof)  $[f] \in \pi_1(B)$  とすると、

$$f : I \rightarrow B \quad \text{で、} \quad f(0) = f(1) = *$$

$e_0 \in F$  に対し、  $e_0 : \{*\} \times \{0\} \rightarrow E$  を、  $e_0$  への定値写像とすると、

$$\begin{array}{ccc} \{*\} \times \{0\} & \xrightarrow{e_0} & E \\ \downarrow \cap & & \downarrow p \\ \{*\} \times I & \xrightarrow{f} & B \end{array}$$

は可換となる。もう当然のように CHP を使えば、

$$\begin{array}{ccc} \{*\} \times \{0\} & \xrightarrow{e_0} & E \\ \downarrow \cap & \nearrow \exists \bar{f} & \downarrow p \\ \{*\} \times I & \xrightarrow{f} & B \end{array}$$

を可換にする  $\tilde{f}$  の存在が言えるので、  $\tilde{f}(0) = e_0$  ,  $p \circ \tilde{f} = f$

あとは、  $\tilde{f}(1) = e_0$  が言えればいいのだが、そうとも限らない。ところで、

$$p \circ \tilde{f}(1) = f(1) = * \quad \text{なので、} \quad \tilde{f}(1) \in p^{-1}(*) = F$$

ここで、  $F$  : 弧状連結より、

$$\exists \alpha : I \longrightarrow F \quad \text{s.t.} \quad \alpha(0) = \tilde{f}(1) \quad , \quad \alpha(1) = e_0$$

ここで、  $g = \tilde{f} + \alpha : I \longrightarrow E$  は、  $g(0) = g(1) = e_0$  である。

$$\therefore [g] \in \pi_1(E)$$

であり、  $p_*[g] = [p \circ (\tilde{f} + \alpha)] = [p \circ \tilde{f} + p \circ \alpha] = [p \circ \tilde{f}] = [f]$

つまり、最終的に言えば次の定理にたどり着く。

### Theorem 0.1.6

$p : E \longrightarrow B$  が、 fiber を  $F$  にもつ fiber bundle とする。  $B$  が基点  $*$  を持つ CW complex で、  $F$  : 弧状連結ならば、 次の完全列がある。

$$\begin{aligned} \cdots \longrightarrow \pi_n(F) \xrightarrow{i_*} \pi_n(E) \xrightarrow{p_*} \pi_n(B) \xrightarrow{\partial} \pi_{n-1}(F) \longrightarrow \cdots \\ \cdots \longrightarrow \pi_1(F) \xrightarrow{i_*} \pi_1(E) \xrightarrow{p_*} \pi_1(B) \longrightarrow 0 \end{aligned}$$

この完全列があるからこそ、 fiber bundle というのが重要なのである。 Hopf fiber bundle が球面のホモトピー群に威力を発揮するのわかっていただけでしょうか。

### Theorem 0.1.7

$\pi_2(S^2) \cong \mathbf{Z}$  であり、 その生成元は、  $[1_{S^2}]$  である。

proof) 基本群の所で、  $\pi_1(S^1) \cong \mathbf{Z}$  の生成元が、  $[1_{S^1}]$  であった。

$S^2$  : 基点付き CW complex なので、 上の定理の完全列があるがその一部で、

$$\pi_2(S^3) \xrightarrow{p_*} \pi_2(S^2) \xrightarrow{\partial} \pi_1(S^1) \xrightarrow{i_*} \pi_1(S^3) : \text{exact}$$

$S^n : (n-1)$ -connected より、  $\pi_2(S^3) = \pi_1(S^3) = 0$  なので、

$$\pi_2(S^2) \cong \pi_1(S^1) \cong \mathbf{Z}$$

ここで思い出すと、  $p_* : \pi_2(S^3, S^1) \rightarrow \pi_2(S^2)$  同型であるので、

対空間での連結準同型  $\partial : \pi_2(S^3, S^1) \rightarrow \pi_1(S^1)$  も同型である。

$$f : (D^2, S^1) \cong (E_+^2, S^1) \xrightarrow{\subset} (S^3, S^1)$$

に対し、  $\partial[f] = [f|_{S^1}] = [1_{S^1}]$  であるため、  $[f]$  が  $\pi_2(S^3, S^1)$  の生成元である。

そして、  $p : (E_+^2, S^1) \rightarrow (S^2, *)$  なので、  $p_*[f] = [1_{S^2}]$  と見なせる。

$$\therefore \pi_2(S^2) \cong \mathbf{Z} \text{ の生成元は、 } [1_{S^2}]$$